





「阪神高速 未来へのチャレンジプロジェクト」
第 2 回助成・事業実施報告書

1. 基本事項

団 体 名	ナツワークス (NUTsWORKs)		
事 業 名 称	地域で取り組む、荒廃竹林の資源活用、活動周知に向けた取り組み	助成額	50万円
申請事業の概要	荒廃竹林の資源活用による持続可能な循環型のまちづくり。厄介者の竹を資源活用する取り組みと、その活動の周知する場として『竹まつり』の開催をもって人と人とを繋ぐ取り組み。		
申請事業の目的	当団体は厄介もの竹を利用し、竹あかりと呼ばれる竹のランプシェードを作り、自分のまちを自分たちの手で彩る取り組みを実施する。あわせて竹の有効活用の取組みを広く周知する場『竹まつり』への企画者としての関わりを通して、行政、地域住民、近隣企業との連携を図る必要性を作りだすことで、人と人、地域と人を繋ぐ持続可能な循環型のまちづくりに取り組むことを目的としている		
関連するSDGs目標	   		

2. 助成事業の実績・成果等について

事業の目標としていた、地域資源として竹を活用した地域主体のイベント『第一回竹まつり』が 2023 年 3 月 26 日(日)に無事開催することが出来た。NUTsWORKs として、当初の計画通り本助成を活用し会場に移築された竹ステージに竹あかりを灯し、多くの方に活動の周知を図る機会を創出することができた。イベント当日は雨の中の開催となり、予定していたステージイベントが中止になるなど完全な形での開催とはいかないながらも当初 1000 名の集客とは至らずも 770 名の方に会場に足を運んで頂く事が出来た。(参考資料として報告書を添付)

また目標に掲げていた他団体との連携に関しては、当初想像していた実行委員会形式の祭の運営ではなく、竹まつりの準備から運営を共に作り上げていくサポートメンバーのコミュニティ『ちくのわ』を立ち上げ 46 名(企業団体を含む)のチームを結成することが出来た。当団体として『ちくのわ』のメンバーに向けてワークショップとして『竹龍』の制作を提案し、2023 年 3 月 12 日にワークショップを開催、竹のステージ並びに竹龍の周囲に竹あかりの装飾を施し、共に作り上げる祭のイメージを参加者と共有する事が出来た。(参考資料としてワークショップの案内状並びに竹まつりのチラシを添付)

3. 課題分析や今後の発展性

第 1 回竹まつりは、岸和田市政 100 周年のタイミングと重なり、岸和田市からの予算がある形で実施出来た為、会場に竹製の建築物を作ったり会場づくりを実施することが出来たが、第 2 回以降は自主財源の確保が必須である、しかしながら取り組みを進める『ゆめみヶ丘岸和田まちづくり協議会』の事務局運営が行政中心であることから、経済活動へ導くにも大きな一歩が踏み出しにくい点が課題である。第 2 回竹まつりは 2023 年 11 月 26 日に開催が決まり現在準備を進めている所であるので、今回はブース出店者から出店料を徴収し一部自主財源の確保へとすすめていく計画である。

また、前回の成果である、竹まつりのサポートメンバーのコミュニティ『ちくのわ』の運営に関しても、課題がある。団体の設立時に規約を作成する等目指す姿を全体で共有できていなかった為、参加者それぞれが情報共有を図る掲示板機能ばかりが目立ち団体の立ち位置が分かりにくくなってしまっている。第 2 回の開催が決まったこのタイミングで全体でのコミュニケーションを図る場を提供し参加者の声を拾い集める機会を作る計画である。

4. 代表者又は担当者からのひとこと

この取り組みを進めるほどに公民連携の必要性を強く感じる、行政が得意とする部分と民間の力が活かされる分野を棲み分けし、真の意味での連携を図ることが出来ればもっと取り組みは具体化されスピード感も増すことが出来るはずである。課題を乗り越え強みに出来る様に、コミュニケーションを図りながら進めていくことで自走するチームに育て、息の長いイベントに出来るように取り組みを進めていく、今後は会場横に商業施設のオープンが控えており連携しより多くの人に知ってもらえる活動周知の為に取り組みへとすすめていければいいと考えています。